

洗浄施設の裾切り指標について

論点：裾切り指標として、どのような指標を採用すべきか。

裾切り指標の案	メリット	デメリット
<p><非外形的な指標を用いる> 案1：VOCの年間使用量</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・VOCの実排出量との相関を大きくすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設稼働前や立入の際に第三者が指標の値を確認することができない ・操業率等の変動に応じ、指標の値が変動してしまう
<p><外形的な指標を用いる> 案2：液面面積</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・潜在的なVOC排出可能性と相関がある ・第三者が指標の値を確認することが容易 ・大気汚染防止法において洗浄施設について「液面面積」という指標が採用されている ・蒸気・シャワー洗浄についても空気に接する面を液面と想定することにより適用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥施設が分離しているものについては液面がない
<p><外形的な指標を用いる> 案3：送・排風機の能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・潜在的なVOC排出可能性と相関がある ・第三者が指標の値を確認することが容易 ・大気汚染防止法において乾燥施設について「送風機の能力」という指標が採用されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染防止法において洗浄施設について「液面面積」という指標が採用されており、整合性がとれない